

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2471100236
法人名	医療法人 茜会
事業所名	グループホーム みやき
所在地 (電話番号)	熊野市井戸町616 (電話) 0597-89-2516
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 9 月 25 日(木)

【情報提供票より】 (H20年7月28日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 6人, 非常勤 5人, 常勤換算 8人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2 階建ての	階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000~30,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円~
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	700 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 1,500円		

(4)利用者の概要(7 月 28 日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	名	要介護2	2 名
要介護3	6 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 87 歳	最低 73 歳	最高 95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大石医院 前川歯科 熊野病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

熊野市駅から歩いて5分程のところであり、近くには店や喫茶店等もある街の中の事業所である。病院であったところを改装し、1階がデイサービスセンター、2階がグループホームとなっている。事業所は、「ゆったり、ゆっくり、のんびり」をモットーに、明るく和やかな雰囲気のある事業所である。事業所では、特に、家族との信頼、協力関係を築くことに力をいれ、毎月、利用者一人ひとりの暮らしぶりについて家族へ「便り」を出している。職員手書きの写真も添えてのこの「便り」は、家族に大変喜ばれている。毎月のこと、職員の苦労は大変なことと思われるが、事業所への親しみと理解を深め、利用者、家族、事業所の職員を繋ぐ太いパイプとして大きな役割を果たしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題である、地域の同業者との交流については、相互の職場訪問を行ない、又、災害対策について運営推進会議で検討するなどの取り組みが行なわれているが、市町の担当者との連携については、運営推進会議以外の行き来の機会が今のところなく、今後の課題として残っている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員が自己評価の全項目に意見を出すようにしており、そのことを通して、ケアの振り返りの機会ともしている。外部評価も事業所内に掲示し、職員全員で改善に取り組んでいる。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>昨年度、3回運営推進会議を開催。防災対策や看取りの取り組みについて報告し意見交換した。グループホームに対する理解を広げる機会ともなっている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議に家族の代表に参加してもらい、事業所運営に対する意見を出してもらおうようにしている。又、面会時には、出来るだけ家族の意見を聞くようにしており、意見箱も事業所内に設置している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>夏祭り等の事業所の行事に地域の人達に沢山参加してもらっている。又、地域の一員として、清掃活動等の地域の行事に参加している。</p>
重点項目④	

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関係性も含めた事業所の基本理念を持ちながら、利用者・家族にも更にわかり易い言葉として、職員で話し合って「ゆったり、ゆっくり、のんびり」を事業所に掲示している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は理念を共有し、常に理念に立ち返りつつ、実践に取り組んでいる。ミーティング等で管理者は職員に徹底している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭り等の事業所の行事に地域の人達に沢山参加してもらっている。地域の一員として、清掃活動等の地域の行事に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が自己評価の全項目に意見を出すようにしており、そのことを通して、ケアの振り返りの機会としている。外部評価も事業所に掲示し、職員全員で改善に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度は、3回運営推進会議を開催している。防災対策や看取りの取り組み等について報告し、意見交換をした。グループホームに対する理解を広げる機会ともなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者に運営推進会議に参加してもらっているが、それ以上の連携の機会が持っていない。	○	市担当者との行き来する機会を増やし、地域とのつながりを広げていく際の協力を得る等、サービスの質の向上に活かしていく取り組みを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、利用者一人ひとりの近況を写真等を添えて個別の「便り」を出し、家族に大変喜ばれている。年間の写真をもとに個人カレンダーも作っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の代表にも参加してもらい、事業所運営に対する意見を出してもらうようにしている。又、面会の時には、出来るだけ家族の意見を聞くようにしており、意見箱も事業所内に設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年の職員異動は、退職者1名のみである。職員の異動の際には、利用者にも充分説明している。新しい職員と利用者との馴染みの関係を築くためには、充分時間を掛けるようにし、混乱なくサービス提供が出来るよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へは、職員のキャリアに応じ、実務者研修等の研修会に参加させている。その際は、宿泊費、交通費を支給している。職員各自も自主的に地域の研修会に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県グループホーム連絡協議会に参加している。地域の同業者とは、まだ相互の職場訪問研修等などは行なわれていない。	○	地域の同業者との交流を一層深め、地域の共通課題への取り組みやサービスのレベルアップにつながっていくような取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に見学をしてもらったり、テスト入所をしてもらったりして馴染みながら利用開始出来るようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生経験豊富な先輩から教えられ、学ぶことが多く、共に過ごし支えあう関係を築いていくようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動、日々の関わりの中で意向の把握に努めている。本人意向や思いを記録に残し、職員で共有するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事前に職員から意見を聞き、介護計画作成をし、毎月のカンファレンスで検討している。又、家族に相談し、同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則3ヶ月に1回見直しを行なうことにしているが、その人の状況に応じ、見直し期間を変えている。必要に応じて随時の見直しも行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外泊支援を行なっている。短期入所の受け入れを検討課題としている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医に月1回往診してもらっている。これまでのかかりつけ医師への受診も1名がしている。家族が遠方等の場合、通院支援もしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の強い希望と家族の協力もあって、看取った利用者もあるが、終末期における方針は決まっていない。	○	今後においても、利用者、家族の希望に副って重度化や終末期における柔軟な対応を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇り、プライバシーに充分配慮した言葉使いや態度に心掛けている。個人記録の保管にも充分な配慮がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	だいたいのスケジュールは決めているが、それを押し付けることはなく、一人ひとりのペースや希望によって過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年数回外食の日を設けている。又、気分を変えるため、畑や公園に行って食べる等、食事を楽しむ工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、週3回午後に行っている。入浴を嫌がる人には、タイミングを見計らい奨めるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は重度化し、意欲も低下してきている中で、役割や楽しみの支援が困難になってきているが、出来だけその人に合った役割や楽しみごとの支援をするようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎週土曜日は、全員でドライブに行っている。足湯にも行くなどの外出支援を行なっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を設置しているが原則掛けていない。工夫して見守り、安全の確保に取り組むようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署の指導を受けながら、火災訓練をしている。	○	夜間想定や地震災害の訓練も必要と思われる。又、災害時における地域の人達の協力、支援体制づくりも検討していく必要があると思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分チェックを毎日記録し、支援を行なっている。食事の好き嫌いの激しい人や摂取量の少ない人は、医師に相談しエンシュア(栄養飲料)を処方してもらい飲んでもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂には、みんなで作った貼り絵や行事の際の写真や絵画を飾ったり、ベランダには花を置く等安らげる共用空間となるよう工夫がされている。又、トイレや浴室も清潔に保たれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた椅子や好みのぬいぐるみが部屋に置かれ利用者が居心地よく、落ち着いて過ごせるような配慮がされている。		